小樽市教育研究所報

環流

第１８６号　令和５年９月２９日

＜目　　次＞

児童の活動：桜小学校・・・・・・・・・・・・・P1
巻頭言：水口　正紀　校長・・・・・・・・・P1
環境教育研修講座・・・・・・・・・・・・・・・・・P2
ふるさとキャリア教育研修講座・・・・・P3
北海道教育研究所連盟夏季学習会より・P3
教育研究所情報：
教育相談，ＳＳＷ関係等・・・・・・・・・・・P4

←夏休みの学習会で集中して取り組む５・６年生

←クロームブックを使って課題に取り組む３年生

↑ まっすぐ手を伸ばしてがんばる２年生（学習規律の約束）

「おだやかさを土台とした，ひとりだちする子の育成」

小樽市立桜小学校　校長　水　口　正　紀

令和２年度に校長として桜小学校に赴任したとき，経営方針を見て印象に残ったのが「おだやかな桜小を目指す」というワードでした。目標に掲げると言うことは，おだやかではないという状況があったのだと想像されます。確かに，小樽に新卒教員として赴任した３０数年前から，桜小学校と言えば，児童数が多く，元気な子がたくさんいる学校だという印象をもっていました。

おだやかさは学級づくりの土台です。 逆に言うと，おだやかでなければ授業も楽しくなく，良い人間関係も築くことができません。令和元年度から始まった，おだやかさを目指す学校づくりは，この５年間で着実に進んできました。学習規律・生活規律の徹底や自己肯定感を高めるあたたかい言葉がけから始まった取組は,「時を守り　場を清め　礼を正す」を根幹とした学校経営に引きつがれ，気持ちのよいあいさつが響く学校へと変容してきています。

また，令和３年度からは,「ひとりだち」をキーワードに，自律する子の育成にも取り組んできました。これは,「言われたことは素直にやるが，みずから考え進んで行動することが苦手」という桜小の子どもたちの実態から始めたことです。さらに，令和４年度からは，小中一貫教育の目標にも掲げています。

おだやかさを桜の伝統として根付かせ，小学校卒業時・中学校卒業時に「ひとりだち」する姿を目指し，小中９年間で桜地区の子どもたちの成長を育んでいきたいと思います。

「環境教育研修講座」

～「新版小学校理科教材おたるの自然（デジタル版）」の活用を通して～

７月３１日（月），小樽市教育委員会別館会議室において「環境教育研修講座～『新版小学校理科教材おたるの自然（デジタル版）』の活用を通して～」を開催しました。Chromebook を利用しながら楽しくわかりやすい理科の授業の指導方法等について参加者２１名で研修を深めました。研修講座の概要については，次の通りです。

１　「新版小学校理科教材おたるの自然（デジタル版）」の編集の意図等（指導Ｇ　福木主査）

○小樽市教育委員会学校教育支援室指導グループ福木主査より「新版小学校理科教材おたるの自然（デジタル版）」の編集の意図や活用等について説明がありました。

・「新版おたるの自然」は，①教科書と関連付けてあるので授業で活用できる，②小樽で見られる自然を中心に編集し，地域理解を進め興味・関心を高めることができる，③写真や図が豊富で視覚で捉えることができる。

・「新版おたるの自然」は，冊子版→Web 版の作成過程を経てデジタル版の作成に至っている。

・「新版おたるの自然（デジタル版）」は，①冊子版のすべてをデータ化し，②「分野別」「学年別」で構成され，③草花，昆虫，川などの画像や音声・動画の視聴が可能である。

・「新版おたるの自然（デジタル版）」は，教科書の学習はもとより，「個別最適な学び」をすすめるための補充的・発展的な学習にも活用することができる。また，休み時間など，授業時以外でも児童生徒が主体的に活用することができる。

２　実践紹介１（朝里小学校　鏡　幸太　教諭）

○講師から，５年生理科の年間指導計画と新版「おたるの自然」との関連についての説明の後，事例の紹介がありました。(一部抜粋)

①活用プラン１：　５年生理科　流れる水のはたらき

・上空からの朝里川の画像を見ながら普段自分たちが生活している地域と川の位置を照らし合わせることにより，川の特徴を明確にイメージし，そのはたらきについて学習を深めることができた。

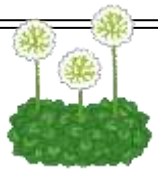
・動画や写真に含まれる情報について，指導者が児童に漠然と提示するだけでは理解しづらくなることもあるので，ねらいを明確にして扱うことが大切である。

②活用プラン２：　５年生理科　台風と天気の変化

・小樽で実際に受けた大雨や台風の被害の様子の画像は，児童が実感を伴って理解することができ，災害や命を守ることについて話し合う効果的な材料になった。

・画像との関連から，インターネットで市のハザードマップ等を閲覧し，身近な情報を得ることも大切である。

３「実践紹介２（西陵中学校　中村　郷久　教諭）



○講師から，９年間の単元配列表の説明の後，中学校での活用場面も含めた実践紹介がありました。(一部抜粋)

①実践事例１：　５年生理科　花から実へ

・教室において，周辺にあるタンポポ，クローバー，イタドリ等を「新版おたるの自然」で確認し，その後外に出て実際に観察した。特に，タンポポの在来種と外来種の違いに注目した。

・中学校では，葉にも注目させた。「新版おたるの自然」に出てくるツユクサは葉が薄く剥がれやすいため，気孔の観察に適している。

②実践事例２：　５年生　台風と天気の変化等　　６年生　変わり続ける大地等

・「新版おたるの自然」で小樽の過去の災害の写真を参照しつつ，インターネットで「小樽の防災」を検索し，自分の住んでいる地域との関連，避難所までの経路，災害に備えて自分にできることは何かなどを考えた。

参加者からは，「インターネットで検索することの難しい学校周辺の身近なものが『おたるの自然』を活用することで簡単に見ることができる。」「『わたしたちのくらしと災害』では市内の過去の災害の様子が見られ，児童生徒は災害を身近に感じとることができる。理科以外でも防災教育として様々な場面で活用できるのではないか。」など，今後の学習指導に生かしていきたいという趣旨の意見・感想が多く出されました。

ふるさとキャリア教育研修講座
～歴史的価値のある施設・街並みの活用を考える～

日程：7/25～8/31 ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ
講師：小樽市総合博物館
　　石川　直章　館長
　　：桜小学校
　　薮田　晃一　教諭

今年度のふるさとキャリア教育研修講座は，オンデマンド形式で開催し，市内の小中学校６８名の先生方に視聴していただきました。

講師の小樽市総合博物館　石川直章館長には，教材「小樽の歴史」の構成や活用方法に加えて，歴史を学ぶ意義，学習効果が高い文献等について紹介していただきました。

教材「小樽の歴史」については，大昔のくらしから運河保存運動までの７項目のテーマに沿って，わかりやすく説明していただくとともに，学習効果が高い文献として，「小樽市歴史文化基本構想」（小樽市教育委員会編）を取り上げ，市内の文化遺産を概括して紹介していただき，付録として文化遺産すべてのデータを掲載していただいております。また，「小樽市１００年の歩み」（小樽市役所総務部発行）も取り上げ，明治以降の小樽市史を写真と合わせて紹介していただいています。これは授業で利用する際にはスキャンして使用することが可能です。

桜小学校の薮田晃一教諭からは，教材「小樽の歴史」を活用した取組例について紹介していただきました。第一章で学んだ内容を基に，第二章では学習を深めるために，グループ別・課題別に学習活動に取り組む過程について説明していただきました。また，手宮中央小学校の小樽観光案内人ジュニアの取組での活用例として，実際に観光客相手にガイドをしている映像に加え，自分たちの学習内容を振り返る際には，テーマごとにくわしくまとめられている教材「小樽の歴史」が有効であることも紹介していただいております。

令和5年度　北海道教育研究所連盟夏季学習会報より

令和５年７月 28 日（金）に実施された標記の学習会について，本研究所から平口山研究員（潮見台小）がリモートにより参加しましたので概要について紹介します。

１　目指す授業像について考える！【講義】

○本講義では，「個別最適な学び」についてスポットを絞り，展開された。

○「個別最適な学び」には，「指導の個別化」と「学習の個性化」の要素があるが，両方に共通しているのが「自ら学習を調整する」こと，→つまり「自分で学びを進める！」ことである。
　そのために・・・

教師は…
「自らの興味や理解度に合わせて学ぶスピード（進度）や使用するツール（手段）などの選択をある程度委ねる！」

児童生徒は…
「自己調整しながら学習を進めていく！」
自分で選択する

「学び取る力！」の育成

○【授業観の転換】クラウド，高速通信回線，端末を最大限に活用し，個別最適で協働的な学びを通して，「自分（たち）で学び取る力」を育成すること

児童生徒が，
「やられる！」から
「自ら取り組む！」へ

＜教師の役割＞
「委ねる！」「学び方を教える！」
「各教科の見方・考え方を深めさせる！」

２　目指す授業の実現のために　何をすべきか考える【演習】

○目指す授業像について具体のイメージをもてるよう授業体験という形式で演習が行われた。

○演習では，グループごとに meet を接続した上でスライドを共有しながら授業が展開された。途中，「25 分を自由に使ってください」という指示があり，時間の使い方や進め方を参加者（学習者）に委ねられた。グループでは，スライドでお互いの進行状況を見合いながら（他者を参照），分からないことを質問し合ったり，アドバイスし合ったりしながら進めた。

【目指す授業像についての基本的な考え方】○授業観の転換：主役は子ども→「主語」
○土台：基礎学力，学習規律，学習の基盤となる資質・能力，良好な人間関係
○情報活用能力の育成（キーボード入力の操作等）　○学び方の習得，ガイダンス，学ぶ意義の浸透
○教師の適切なかかわり（教科の本質，学習の停滞・発展への支援）
○発達の段階，一斉授業や体験活動等とのバランスに配慮　○探究の学習過程の重視　　など

教育研究所情報

教育相談の状況と改善に向けて

１　教育相談の状況について（教育研究所関係分）

８月 31 日現在，今年度教育研究所に寄せられた相談は合計９件 13 回（電話 13 回）ありました。昨年度同期の相談件数は，12 件 12 回（電話 12 回）でしたので，今のところ件数は減少傾向にあります。

内容としては，不登校や友人関係、学校の対応などの相談が多く見られました。

２　改善に向けて

相談の多くは学校が速やかに対応し解消されていますが，特に学校の対応に係る相談については、相談者の真意を十分に理解し、丁寧な説明と迅速な対応が大切です。また、不登校については，その要因が個人にかかわる問題によるものが多く早期解決が難しいケースが見られますので、日頃から子どもの些細な変化も見逃さない体制と，子どもの心に寄り添った居場所づくりに努めることが重要です。

『不登校児童生徒への対応について』

スクールソーシャルワーカー（SSW）より

今年度４月から８月末までの相談件数は 32 件です。その内訳は，不登校 19 件（59%），問題行動７件（22%），いじめ２件（6%），その他４件（13%）です。やはり例年と同じく不登校に関する相談が一番多くなっています。（昨年度から継続しているものは 11 件）不登校児童生徒への対応については，各学校で大変苦慮しているところだと思います。

ある調査では，学校を休んでいる時期に，「ひきこもり」「無気力」「身体症状」「抑うつ状態」「家での暴力や反抗」「昼夜逆転や生活の乱れ」がどれくらいあったかを不登校経験者に尋ねたところ，一番強くあったのが「無気力」で次に「昼夜逆転や生活の乱れ」「抑うつ状態」「ひきこもり」「身体症状」「家での暴力や反抗」という順だったそうです。

私も不登校の児童生徒と面談することがあり，将来の自立に向けた話をします。「今は住むところの心配もない。食事も作ってくれる。ゲームもできる。朝起きたい時に起きればいい。でも，それをさせてくれている人（親）は居なくなるよ。そうなる前に自分で生活できるように考えていかなければならないよ。学校に行くことが全てじゃないけど，将来の自分の可能性を広げるのに一番の近道は学校で友達と過ごすことじゃないかな。」効果はすぐには出ませんが粘り強く支援していくことが大事だと思っています。

コラム

【小樽運河竣工 100 周年を迎えて】

今年，令和５年（2023 年）は，小樽運河竣工 100 周年という記念の年に当たります。このことにかかわって本市ではさまざまな催しが行われておりますが，各学校においてもこの機会をとおして，子どもたちが小樽における運河の役割や歴史，そして今後の展望などについて考える機会にしてほしいと思います。

また，小樽市は，日本遺産として＜北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽～「民の力」で創られ蘇った北の商都～＞のストーリーが認定されることを目指しております。小樽運河は小樽の黄金期を物語る史跡ではありますが，将来においても様々な利活用が期待されます。市内にある他の文化財も同様だと考えますので，小樽の未来を担う子どもたちがそれらを学習し，魅力あるまちづくりにつながればと思います。